20230903　振起日礼拝　マタイによる福音書 25 章 31～40 節

「小さいことを侮らない」

今年も暑い夏でした。と、過去形にしてしまって良いのかどうか、分からない日が未だに続いています。敦賀教会幼稚園は、文科省管轄の学校教育機関ということで、暑い 8 月期間中は、夏休みを過ごします。今のご時世、「夏休み」は、ご家庭にとって負担となるだろうということは、私も我が家のこととして痛感しているところですが、でも、教育制度上組み込まれた、この夏の 1 ヵ月は、子ども達と良くも悪くもしっかりご家庭で関わる期間としては、とても有意義であると思っています。だって、子育て期間というのは、親にとっても子どもにとっても、長い人生における、ほんのわずかな間だけで、あとから振り返って、取り返せる類のものではないからです。我が家でも、夏休み期間中、小学校や幼稚園がないことで、せっかく身についた生活リズムはボロボロになり、家中に常に騒音公害が発生しているような状態で、三食の準備も忙しく、小学校に関しては宿題という親にとっても非常に大きな負担が課せられます。でも、まぁ、1 年の内の 1 ヵ月くらいは、四六時中、子どもと向き合うことをしてもいいんじゃないかな、と思います。もちろん、そんな風に子どもに時間を割かれることには賛否両論あろうかとも思います。あまり、私はこういう礼拝の場で、政治的なことは言いたくないんですけど、どの政党であれ、どうか、「お子さんを預けて、安心して働ける社会を実現します！」じゃなくて、「お子さんが小さい間は働かなくても安心して子育てできる社会を実現します！！」って言ってくれないかなって思います。父親か、母親か、別にどちらが家庭育児を主体的に担ってもいいわけですが、夫婦共働きせざるを得ないような社会的経済状況を当然と見る中で、本当は家庭育児に専念したい家庭までも労働市場に駆りだしておいて、「お子さんを預けて、安心して働ける社会を実現します！」と言うのは、ん～、論点違うような気

がするなぁ、と思うわけです。

ごめんなさい、この説教の論点が違ってきてしまいました。夏休みの話をしたかったんです。幼稚園では、夏休みの間も先生たちが来て、2学期の準備をしたり、預かり保育をしたりして、お休みと言いつつ、結構、活発に動いています。2学期は、重要な行事が目白押しなので、準備内容のボリュームも結構多くなります。たとえば運動会のプログラムを考えていきます。スケジュールを決めて、演目を定めて、そこが固まってくると、今度は、各演目の詳細を詰めていきます。ダンスの選曲に始まり、ダンスの振り付けを、担任の先生たちみんなで意見を出し合い、完成させていきます。動作の一つ一つが子ども達にとって分かりやすいかどうか、観客にとって見やすいかどうか、真剣に議論しながら振り付けを考えていく先生たちを見て、いつも感心します。音楽的センスの上に、身体操作の知識と、演出家的な発想も欠かせません。運動会準備の期間は、幼稚園教諭という職業の専門性の高さを垣間見られるひと時でもあります。

と、そんな風に夏休みは、躍動感ある運動会準備を進めていく一方で、職員室で静かに執務していると、保育室からクリスマス讃美歌のピアノ演奏が聞こえてきます。2学期の大きな行事は運動会だけでなく、クリスマス・ページェントが最大の行事と言ってもいいでしょう。実は、夏休み期間中の幼稚園には、クリスマス讃美歌の音色が響いています。焼け付くような日差しが降り注ぐ園庭を傍目に見つつ、クーラーの効いた職員室で、クリスマス讃美歌をＢＧＭにして仕事するというのは、結構珍しい経験なのかも知れません。まぁ、南半球のオーストラリアとかだとこれが普通なのかな、とも思いますが。

そんな風に、幼稚園にいると、意外にも夏休みとクリスマスは親和性の高い、お馴染みの感じなんですね。しかし、預かり保育で来ている子ども達しかいない、いつもに比べたらずっと静かな幼稚園で、クリスマスの出来事に思いを馳せるというのは、なかなか理に適っているかも知れません。

人口調査のために、故郷に帰る人々でごった返していたであろう、ベツレヘムの町にあって、人の住まいから離れた馬小屋で、隠れるようにお生まれになったイエス様。人々が忙しくなく、慌ただしく行き交う中で、「きよしこの夜」を歌うような、静かな空間があったことは、なんとなく夏休み中の幼稚園の様子とも重なります。少々変なお話ですが、クリスマスに向けて気分も最高潮を迎える賑やかな 12 月の幼稚園よりも、少人数で穏やかに過ごす夏休みの幼稚園の方が、なんだか、最初のクリスマスの情景と似ているような気がするんですよね。イエス様って、こういう静かで、あまり知られていないところにいるのかも知れない、と。

もちろん、イエス様は神様の子どもで、あらゆる権能を持っているわけですから、いようと思えば、どこにでもいるとことが、おできになります。戦争の最前線にも、政治の中枢にも、会社の経営会議にも、教会の祈り場にも、被災地の只中にも。どこでもすべてがイエス様の恵みの場であり、祝福の場です。でも、私たちが忘れてはならないのは、そういう特別に激しくて、特別に祈りや願いが行き交うような、そういう特別に派手な場所じゃないところにも、イエス様はいらっしゃるのです。何気ない街角に、スーパーのレジ待ちの列に、改札を通る人の流れに、平日の礼拝堂に、夏休みの幼稚園に、海を眺める人の中に、山道ですれ違う人の中に、もしかしたら、イエス様がいらっしゃるのかも知れない。そこが、恵みの場であり、祝福の場なのかも知れない。

私たちは教会と礼拝が大好きですから、ここに集まって祈りを通して、イエス様と出会い、神様と語り合うことを大切にしています。それは、とても重要な信仰生活の一部です。ただ、今日の聖書箇所にあるように、イエス様との出会いと言うのは、本当に思い掛けない、私たちの考えや発想を超えていることもある、ということは心に留めて置きたいと思います。「さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに

宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ」。これは、聖書の語る昔の世界においても、私たちが生きる現代の世界においても、普通はないことです。よほどの慈善家でなければ、ここまでの福祉活動をすることはないでしょう。だから、この聖書の話に出てくる人たちも、こう答えます。「主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか」。これは、「主」と呼ばれている、ここでは王様として登場している人物に対する福祉活動に覚えがない、ということのみならず、そもそも、誰に対しても、そんなことをした覚えがない、ということかと思います。「いつ、私は、そんな良い立派なことをしたでしょうか」と問うているわけです。「神様の用意された国を受け継ぐほどの、何か良いことを、私はしたんでしょうか」と。

今回の聖書箇所のメッセージには、2通りの受け止め方があります。一つは、「あなたは、気付かないうちに、良いことをしているのだから、むやみに自分を卑下しないように」というおススメです。神様のために、イエス様のために、あるいは、教会のために、何ら立派なことをしてないように感じられても、日々の生活の中でしている小さな親切が、とても大きな奉仕の業として御心に留められているのです。また、一方では、神様のために、イエス様のために、あるいは教会のために、ものすごく立派なことをしていたとしても、日々の生活における親切な行いを欠いていれば、それは、主の御目に相応しくない、ということでもあります。とは言え、まぁ、どの程度の親切な行いが、神様にとって価高いのか、私もよく分かりませんが・・・。たとえば、平和堂の買い物カートが店の外に出てたら中に入れてあげるとか、迷子のように見える子どもがいたら勇気を出して声を掛けてみるとか、飲食店で店員さんに優しく接するとか、他にも、子どもを一個の確立した人格と

して尊重するとか、社会的に見て少数派であったり、自分とは異なる特徴を持ってたりする人を理解する努力を忘れないとか、そういうレベルの小さな親切で良いんじゃないか、と個人的には考えていて、精進しています。できるなら、ロシア・ウクライナの戦争を終わらせたり、地球温暖化を止めたり、日本の雇用・経済・子育て環境を改善したり、したいものですが、まぁ、それは私個人の力では無理なので、祈る他ありませんが、でも、できるところから、小さいことから。そこにも、イエス様がいて、その小さな業を祝福し、大きな恵みと救いに繋げてくださると信じて、取り組んで参りたいと思います。「この最も小さい者の一人」にした親切は、その小ささに収まるのではなく、主なる神様の喜びとなり、そして、この世界を変えるだけの力を持ち得ることを、どうか忘れないでいたいと、心から願います。

今日は、キリスト教の暦において、振起日礼拝として記念されています。「振起日」とは「奮い起こす日」のことで、もともとはアメリカのキリスト教の記念日ですが、日本においては夏休みの余暇を終えて、また、年度の半分を過ぎたことを契機として、「さぁ、ここからまた、神様のために、イエス様のために、教会のために、そして、社会のために、心を奮い起こして行こうじゃないか」と、思いを新たにする聖日礼拝です。「心を奮い起こす」と言うと、なんだか決意して大事業に取り組むような力を感じさせますが、でも、今年度、私たちは大きな目標は追わずに、目の前に広がる小さな目標の一つ一つに心を砕いて参りたいと思います。もうすでに、そのような信仰の業をされている方も多いと思いますが、今年の振起日礼拝の課題聖句を心に留めて参りましょう。これですね。「はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」。イエス様は、最も小さくされた兄弟姉妹の姿を通して、私たちの近くにいらっしゃいます。そのことを知って、小さいことを侮らず、小さいことだからこそ大切であると受け止めて、小さい親切を積み重ねる心を、振い起こして参りましょう。そのわずかな善い行

いの先に、大きな平和と救いがあることを、私は信じています。お祈りを致します。

神さま。今日も、私たちのために、この尊い安息日を備えてくださり、感謝致します。いつもの忙しない日常から離れて、今は、心静かにあなたと祈りを通して語らい、賛美と感謝の言葉を紡ぐことが赦され、感謝致します。あなたは、このように私たちに安息日を備えてくださいました。しかし、それは同時に、私たちには安息を必要とするくらいの働きが期待されているということでもあります。あなたの平和の使者として、主の身体の肢として、私たちは小さくされた者に目を留め、社会の片隅に心を配り、親切な隣人愛を続けていくことを、今日再びあなたの前に約束を致します。決して大きな業は成しえませんが、出会う人すべての背後には、あなたの霊があって、あなたの御心が息づいていることを感じ、良き業を為すことができますように。私たちの心と体を支え励ましてください。振起日礼拝をお捧げる私たちに、心を奮い起こして神様と隣人とを愛し通すだけの信仰と力をお与えください。今日から始まる新しい毎日が、あなたの御業と、私たちの奉仕と祈りによって、喜び多い、幸せな日々となりますように。

このお祈りを、我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。

9月誕生者の祝福祈祷　　聖書：詩編139編15～18節

秘められたところでわたしは造られ／深い地の底で織りなされた。あなたには、わたしの骨も隠されてはいない。

胎児であったわたしをあなたの目は見ておられた。わたしの日々はあなたの書にすべて記されている／まだその一日も造られないうちから。

あなたの御計らいは／わたしにとっていかに貴いことか。神よ、いかにそれは数多いことか。

数えようとしても、砂の粒より多く／その果てを極めたと思っても／わたしはなお、あなたの中にいる。

神様。真夏の太陽がその役割を終えて、暑さと涼しさとが交わるこの9月に、あなたは私たちの敬愛する信仰の友人らに命をお与えくださいました。私たちが生まれる前から、あなたは御心のままに、この敦賀教会へと至る道を備えて下さり、この友人たちとの出会いを御自身の御計画の内に整えてくださいました。あなたの導かれる人生は、この世界に春夏秋冬があるように、変化に富み、様々な気付きと経験を私たちに与えてくださいます。この9月に生まれた方々の人生にも、一言では語り尽くせない喜びと悲しみ、苦労と満足があったことでしょう。あなたは、その全てを用いて、今、この時までこの方々を守り、導いてくださいました。どうか、この9月から始まる新しい一巡りの上にも、あなたの力強い御手と、豊かな祝福と、信仰の支えをお与えください。あなたから与えられた命を楽しみ、その生を謳歌できる日々を、どうか備えていてください。

この祈りを、我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。